

市民ネットワーク

1面 平成22年第1回定例会報告(2/22~3/19)

議会大荒れの中 22年度予算成立

2面 みはまネットの活動報告

学校跡施設利用 / 政治カフェ / 県議会報告

美浜区の福祉・住みやすさリサーチ

発行 市民ネットワーク / 編集 市民ネットワークみはま
千葉市美浜区高洲 3-11-3 並木ビル 2F
〒261-0004 Tel・Fax 278-5005
配布地域 美浜区全域 配布部数:50,000部

崖っぷちの財政!

議会大荒れの中 22年度予算成立

市民ネットは 市長提出原案に賛成

● 組み換え動議・自民の言い分

子どもや高齢者、自治会に対する予算カットや、緊急性のないマニフェスト事業や不徹底な事業見直しにより発生する収支不足を市債管理基金から借り入れることは問題

外部評価による事務事業の見直しは中途半端

最後の砦(人件費)に手をつけたのは問題

中途半端な行財政改革で将来世代にツケを先送り

● しかし、ネットはこう考える

市債管理基金借り入れは、これまでネットも問題視。しかし収支の落ち込みなどによる収支不足は最終的には324億円。その中で、昨年度(前市長・鶴岡氏の最終予算)70億円の借入に対し、22年度は30億円。圧縮の努力が認められる。

市長就任後、予算編成に向けてただちに組み組んだ外部評価。これまで見直し出来なかった事業にメス!市民参加手法も、会場の発言などこれまでにない取り組みもあり今後の継続に期待。

人件費は最後の砦か。過去にない収支の落ち込み、収支不足の中での予算編成なら当然検討すべき。

これまでの財政改革の結果が1兆円超の借金。これほどまでに将来世代へツケを積み重ねてきたことに対し、議会を主導してきた最大会派としての責任をどう感じているのだろう。

22年度予算は熊谷市長が初めて組んだ予算です。就任時から、予算編成をどう乗り切るかは大きな課題でした。借金残高は1兆円を超え、いざという時の基金もほぼ底をつき、税収の落ち込みなどによる324億円の収支不足をどうするか、予想通り議会は大荒れ。

予算審査特別委員会では、市長提出の予算原案に対して、自民、共産の組み替え動議、公明の修正動議が入り乱れました。ネット・民主・無所属(鈴木議員)は市長原案に賛成しましたが、すべての案が多数を得ることができず否決。しかし翌日の議会最終日、4点の修正を求めた自民・公明・新政ちばの共同提出の修正案が可決、その他の部分は市長提案の原案が採択され、予算は成立。新年度の市政運営に支障を来すことはなんとかさけられ



議会最終日の様子

財政再建への道筋

22年度予算では、「市民生活に配慮しながらも手をつけざるを得なかった」と、公共料金の改定15億円、事務事業見直し52億円、人件費削減36億円、等が含まれます。しかし昨年の「脱・財政危機」宣言、今回の予算編成過程の公開など、財政情報はこれまでになく開示され、市民への理解と協力を求める形では一歩前進。今後も財政再建にむけ、補助金の見直し、公共施設の有料化、更なる事業の見直しなど掲げられていますが、市民と意見交換をしながら進めることを求めています。

一夜明け出された修正案↓

市長原案	自民・公明・新生ちばの共同提案
【行政事務委託費】 広報配布料として1世帯当たり400円を300円に削減(約3000万円減)	400円に引き戻し(約3000万円増)
【敬老会関連費用】 敬老会のお弁当代(経費)830円を500円へ削減(約6200万円減)	650円に引き戻し(約1000万円増)
【はり・きゅう・マッサージ施設利用券】 年間24枚を6枚へ削減、所得制限あり(約8800万円減)	年間10枚へ(約2000万円増)
【科学の都】 総務費として80万円	商工費へ移動

修正案の財源は、ナント予備費!

当初自民党は緊急性のない事業を見直し、幼稚園就園補助費など生活関連サービス約3億6000万円の復活組み替えを主張。しかし、翌日の修正案は6000万円。しかも市長原案の予算総額は変わらず、予備費3億円を2億4000万円へ減額する、というもの。千葉市の過去5年間の予備費からの支出は平均2億1000万円ですが、2億9000万円を支出した年度もあり、21年度は新型インフルエンザが流行し、このための緊急支出には予備費で対応したのもあります。まさに不測の事態の緊急財源で、2億4000万円足りるのか不安が残ります。

不可解! 「科学の都」の費用付け替え

千葉市に集積する先端技術企業や大学との連携を深め「科学の都・千葉」を確立していく、という市長マニフェスト。その「科学の都」に関する事業費

湯浅美和子の一般質問

● いきいきセンターの運営について

美浜区にも昨年ようやく真砂いきいきセンターが開設しました。60歳以上の高齢者が利用できるのですが、施設が狭い、制約が多く使いにくい、という声を聞きます。入口には椅子があり、ちょっと休めるスペースとなっている、というのですが、サロンというには程遠い状態です。市内9か所あるいきいきセンターですが、それぞれがもっと個性を発揮できるよう、これからの指定管理者の再選定の際には多様な団体の指定が可能となるよう選定の在り方を工夫してほしいと求めました。

~このほかに~

- 就労支援について
- 職員の研修について
- 夢はぐくむちば子どもプランについて



80万円を総務費から商工費に移すという、公明党提案。80万円かけて行う事業は、まずは何が出来るかの検討機関を設けるもので全く同じ。ただ費用がスライドするだけ。今ある事業に磨きをかけ見せ方を工夫するなら総務費で、今ないものを作り出していくなら商工費、というのですが、原案修正という非常に重い提案をする意味があるのか、理解不能。

議会は活性化したか?

それぞれの動議に対して質疑が行われ、予算審査特別委員会は深夜にまでおよびました。遅くまで傍聴して下さった市民の皆さんの前で、その立ち位置を鮮明にすることができ、議会内での議論は活性化したと言えます。

しかし内容をみると、これでいいのか!自治会への行政事務委託費は、自治会側からも、経費節約のために配布物を見直し無駄を削るべき、という意見もありました。100円のためにこれほどの攻防が必要だったのか、議会として、予算のどこを議論しなければならぬかをしっかりと真剣に考えることが必要だと感じました。

市民ネットワークみはま活動報告

2011年から学校統廃合が始まります

真砂地区(2011年4月から) ⇒ 一中と二中、
一小と四小、二小と三小
高洲地区(2011年4月から) ⇒ 一小と二小
高浜地区(2012年4月から) ⇒ 二小と三小



■ 統合校では・・・

学校名・校歌・校章・体操服・上履き
名札・施設・備品・行事・PTA組織
その他いろいろ・・・
今、検討されています。

■ 学校として使われなくなる跡施設の利用例

- 集合住宅(徳島県上勝町)
- 体験工房(神戸)
- NPOハウス(港区)
- 保育園+高齢者向け住宅(品川区)
- 芸術センター(京都)
- 図書館(京都)
- 子どもみらい館(京都)

財政厳しい千葉市では、校舎を取り壊して新しい施設を作ることは難しそうです。

今ある校舎を使って「美浜区にあつたらいな」と思うのが、デイサービス、特別養護老人ホーム、ケアハウス、児童館、子どもルーム、保育所 等等。

学校跡施設を地域で有効利用できるよう、ネットでは学習会等を続けていきます。

県議会報告 県議会議員(緑区)川本幸立

虫歯予防に劇物のフッ素は不要 ～自民提案の「虫歯予防条例」に反対

安全性の面ではWHOも98年の勧告で6歳未満のフッ素洗口は推奨しないこととしていますが、フッ素の先進国アメリカでも、フッ素による「斑状歯」被害が増え、06年に歯科医師会から「フッ素入り歯磨き剤は2歳未満には使わないよう」という通知が出ています。千葉市でも、以前学校でフッ素塗布がいらしていましたが、現在は取りやめました。

条例に基づく計画は今後作成されますので、健康安全面、虫歯予防効果について県民から声をあげていきましょう。

虫歯を防ぐには、①甘いものをあまり食べない、②栄養のあるものをよく噛んで唾液をたくさん出す、③食後の歯磨きとフッ素塗布の励行、で十分といわれます。

2月県議会で自民党が「フッ化物でむし歯を予防する」フッ化物による「虫歯」を明文化した「千葉県歯・口腔の健康づくり推進条例」(案)を

発議し、私達の会派以外の賛成多数で可決されました。

歯の健康づくりには異論はありませんが、私たちが反対した理由は、①フッ素は本来劇物であり「斑状歯」という深刻なむし歯病を起こすほか、骨の成長異常(低身長など)、DNAに影響(ダウン症)、発ガン性など健康障害が懸念されること、②フッ素が虫歯の予防に効果があるという科学的な根拠を示すデータがないこと、③学校現場でフッ素塗布が行われるおそれがあること。

安全性の面ではWHOも98年の勧告で6歳未満のフッ素洗口は推奨しないこととしていますが、フッ素の先進国アメリカでも、フッ素による「斑状歯」被害が増え、06年に歯科医師会から「フッ素入り歯磨き剤は2歳未満には使わないよう」という通知が出ています。千葉市でも、以前学校でフッ素塗布がいらしていましたが、現在は取りやめました。



「政治カフェ」は生活カフェ

地域には思いがけず、いろんな専門家や、まちづくりにじっくり取り組んでいる人などが住んでいるものです。ユニークな自治会活動をしているところもあります。市民ネットワークでは、音楽や映画を語るように政治を語る人をふやしたいと、20年前から活動してきました。テレビのワイドショーで取り上げられる政界のあれこれではなく、地域に根差した生活密着の政治カフェを目指しています。政治をタブーとしない井戸端会議、といってもよいかもしれません。

第1回は打瀬にお住まいの神谷秀美さんと、大規模地震などの災害時要援護者支援について、話し合いました。住民参加の防災計画づくりなどを各自治体とともに取り組んできた経験から、大切なのは日頃のお付き合い、という結論になりました。

2回目は、まさに日頃のお付き合い、タイミング良く機嫌の福祉協力員ネットワーク準備委員会の石原さんと中村さんに来ていただきました。独り暮らしの高齢者などを見守る地域のネットワークが2年間の準備を経て昨年秋からスタート。市民から発想した助け合いの仕組みに注目が集まっています。

これからも月に1度、政治カフェを予定しています。どうぞふらりとおしゃべりにいらしてください。(磯辺 岩橋百合)



災害時に困ることは何?

美浜区の福祉&住みやすさリサーチ

みはまネットでは、10年前に福祉マップ「住マップ」を作成しました。さて今現在、住みやすさはどのように変わったのか、再度街をリサーチしてみることにしました。

まず京葉線の駅4つをまわってみました。かなり以前私がベビーカーを使っていた時は電車を利用するのも、子どもを乗せたままベビーカーごと抱え、危なっかしく大変な思いをして階段を上り下りしていましたが、今はエレベーターが設置され、車いすでも、かなり楽にホームに上がれるようになりました。

稲毛海岸駅南側のロータリーには、車いす優先の乗降場が整備されています。屋根がなかったのは残念でしたが、街づくりの意識の変化を感じました。又、検見川浜海浜公園では、以前からネットが提案していたウッドデッキや浜辺へのスロープが整備され、利用が増えています。

こうした状況が点から線につながっていけば、誰もがもっと安心して日常生活がおくれるようになっていくのではないのでしょうか。

ベビーカーや車いすの利用、また運動や視覚・聴覚の不自由は誰もが経験する可能性があります。街の形や人と人とのつながりで、住みやすさがもっとアップするといいですね。今後もいろいろな視点でリサーチを続け、「住マップ」のリニューアルも目指しています。いっしょに街リサーチしてみませんか? 普段と違う風景が見えてきます。(高浜 中村)



車いす優先の乗降場

インフォメーション

★政治カフェ

日時: 毎月第3土曜日
15:30 ~ 17:00
参加費: 無料
次回: 5月15日

～私たちの暮らしは至る所で政治に結びついています。地域で活躍中の方を迎え、課題を考えていきます～



場所は、みはまネットです。

★歌カフェ

日時: 毎月第1火曜日
14:00 ~ 15:30
参加費: 100円
次回: 5月18日

★手作りカフェ

日時: 毎月第4水曜日
13:30 ~ 15:30
参加費: 500円 + 材料費
次回: 未定

★読みカフェ

日時: 毎月第3水曜日
14:00 ~ 15:30
参加費: 100円
次回: 5月19日

◆ネットふれあい市

毎月第4土曜日 10 ~ 14時 / 真砂中央ショッピングセンター
有機栽培野菜・フェアトレードの雑貨アジアン・プリマ等

「議員年金・政務調査費を考える」

- 講師: 若林智子さん / 神奈川ネット
岩本香苗さん / なくそう! 議員年金実行委員会座長
- 日時: 2010年5月7日(金) 14:00 ~
- 会場: 県ネット4階会議室
- 資料代: 500円
- 主催: 市民ネットワーク千葉県 TEL043-201-1051

学
習
会

「教育」連続学習会 第1回「高校生の貧困問題」

- 講師: 鳥塚義和さん(県立高校教諭)
- 日時: 2010年5月8日(土) 13:30 ~
- 会場: 県ネット4階会議室
- 資料代: 500円(予定)
- 主催: 市民ネットワーク千葉県 TEL043-201-1051

くらし生活みつめれば せいじ政治

市民ネットワークちはは、1990年に誕生。今年設立20周年になりました。現在、市議6人と県議1人を送り出し、市民の声を議会に届けています。

市民ネットの3つのルール

- ・議員は市民の代理人 原則2期で交代
- ・選挙はカンパとボランティアで手作り
- ・議員報酬の多くを市民に必要な政策活動費に

●ネット情報メール配信

イベントや学習会など、市民ネットワークの情報を配信します。下記アドレスまで、「ネット情報メール希望」と送信してください。(PC, 携帯可) mihama@chibanet.jp